

聞き取り調査結果

(調査期間)

1996年7月～8月

(対象)

神戸市内各所の応急仮設住宅入居者

(質問項目)

- 1 家族構成・年齢
- 2 旧住居
- 3 被災状況
- 4 震災前の職業、収入、生活状態、健康状態
- 5 現在入居している仮設住宅の名称、所在、構造、間取り、面積など
- 6 入居時期、入居に至った経緯。
- 7 構造、間取り、面積、設備についての評価
- 8 住環境についての評価
- 9 居住性についての評価
- 10 入居後に改善されたところの有無
- 11 入居後の職業、収入、生活状態、健康状態
- 12 転出の目処の有無
- 13 仮設住宅の統廃合で別の仮設住宅に移転しなければならなくなっ
た場合どうするか
- 14 神戸市、兵庫県、国に対する要望

1階入居者は、だいたいいい関係が続いているが、2階の人はバラバラ。近隣住民との交流は全くない。

買物、通勤、通学、通院などの生活には便利な所。

9 最悪。プライバシーがない。隣の物音が丸聞こえ。夫婦生活もできない。

10 階段に手すり、踏み板の滑り止め、風雨よけの囲いが取り付けられた(1996年春)。

公園で野球をする子供のボールよけのネットが最近設けられた。

11 夫の収入が半減したので、私もパートに出て、月額10万円程度の収入をあげている。

生活が厳しいので、震災前は一般紙とスポーツ紙をとっていたが、購読をやめた。

預金は全くない。

私はストレスがたまり、胃潰瘍になった。

12 全くない。

仮設住宅入居期限経過後は公営住宅に入居を希望する。家賃は、月額せいぜい3~4万円。将来高くなるとしても6~7万円までとしたい。

13 統廃合は困る。反対。

14 早く、公営住宅を建ててほしい。一刻も早く仮設住宅から出たい。

しかし、仮設住宅にいる間は、もう少しまともな生活ができるようにしてほしい。

近隣住民に、ここは公園だから、仮設住宅は邪魔だという気持ちがある。そういう点についても行政のほうで、啓発してほしい。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

陳述者 女性(68才)

1 一人(女)68才、夫とは死別、子供らは遠方にそれぞれ独立して居住。

2 神戸市中央区日暮通の賃貸アパートに一人住まいであった。

家賃月額1万8000円。6畳一間で共同トイレ、浴室なし。

3 全壊。家財道具も持ち出せなかった。幸い頭部を打った程度で、ケガはなかった。

震災後、1995年8月12日まで吾妻小学校で避難生活。

4 飲食店のパートで1ヵ月5~6万円の収入を得ていた。そのほかに国民年金を月額にして4万5000円程度もらっていた。当時から生活はギリギリだった。

健康状態については、腰痛があった程度で特に問題はなかった。

5 神戸市中央区生田町2丁目所在の生田町公園仮設住宅。

地域型一般仮設住宅。2階建1棟で各階12部屋ずつ。現在空き部屋は3部屋ある。

4畳半の部屋と6畳の部屋があり、単身者は4畳半、その他は6畳という区分けをすることになっているようだが、実際にはそのような区分けにはなっていない。

共同浴場は各階に1ヶ所ずつ。各箇所とも、浴室は男女用各1つずつ。トイレは各階に1ヶ所ずつ。各箇所とも男子小便器1つ、通常の便器2つ。

炊事場は、各階にあり、流しは4つずつ。洗面所は各階にある。洗濯場は一階外部。

本人の部屋は6畳1間に、一間半の押し入れ兼物入れ。

6 1995年8月13日入居。神戸市中央区内の仮設住宅の入居申し込みを続けたが当選しなかった。最終の第5次募集でようやく当選。

7 ぜいたくは言えない。前のアパートと同じ大きさなので不自由はない。しかし、玄関ドアや押し入れのふすまのたてつけが悪い。

夏に熱く、冬に寒い構造の建物である。

8 小規模の仮設住宅のため、ふれあいセンターがなく、また自治会もないので入居者どうしの交流がない。他の仮設住宅ではいろいろな活動があり、またボランティアの受入れなどもあるようだが、おいてきぼりになっているような感じがする。

近隣住民との交流は全くない。

買物、通勤、通学、通院などの生活には便利な所。

9 よく盗難があり、安心して住めない。

階段の滑り止めや雨よけがない、階段の下に水溜まりができ、歩きにくい、建物入口にひさしがない。

電話がないと不便だが、7万5000円程度もかかるので電話を引くことができない。

その他の住み心地については特に問題があるわけではない。ただ、公園の中にあるので、そう長いこと住めないのではないかという不安がある。

10 改善された箇所は全くない。

11 職業、収入、生活状態には変化はない。

健康状態については、心臓肥大や気管支炎が加わった。心臓肥大は精神的なストレスが原因のようだ。

預金は全くない。

12 全くない（遠方に住む子供から一緒に住んではどうかと言ってきてくれるが、迷惑をかけたくないので、今までどおり一人で暮らしていきたい）。

仮設住宅入居期限経過後は公営住宅に入居を希望する。家賃は、月額せいぜい2万円まで。それ以上では生活できない。

13 統廃合は困る。公営住宅に入れるまで、ここに居たい。

14 早く、公営住宅を建ててほしい。一刻も早く仮設住宅から出たい。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

陳述者 女性（78才）

- 1 2人。夫81才、妻78才
- 2 神戸市中央区二宮町の借地上の自己所有建物。木造2階建てで1階には本人夫妻が住み、2階に息子夫妻と孫が住んでいた。
1階の本人夫妻の住居は、3部屋と台所、風呂、トイレが独立してあった。
同所には終戦直後から住んでいた。
- 3 全壊。家財道具は使える物もたくさんあったが、仮設住宅には入らないので、殆どの物を捨てた。
幸い息子の家族も含めて人的被害はなかった。
- 4 夫婦あわせて1ヶ月12万円程度の年金収入で、贅沢はできなかったが、普通の生活をしてきた。
夫は昭和51年に喉頭ガンで声帯摘出手術をしたので声が出せず、会話ができないので、殆ど家のなかにとじこもる生活をしてきた。妻は腰、膝が悪く、血圧が高く、また白内障も患っており、整形外科、内科、眼科に週に3～4日通院していた。
- 5 神戸市中央区神若通4-1、神若公園仮設住宅。
高齢者・障害者用仮設住宅。プレハブ2階建ての建物が3棟。1号棟は、上下各8部屋で、空き部屋は1つ、2号棟は、3号棟はいずれも上下かく10部屋で、空き部屋は2つ。全入居者53世帯のうち、殆どが単身者であり、うち8人が入院中である。また介護必要な者は7人いる（うち現在入院中の者は1人）。最高齢者は88才で単身者。
4畳半の部屋と6畳の部屋が半々で、単身者は4畳半、その他の世帯は6畳という入居基準であるが、必ずしもそうはなっていない。
トイレは共同で、各棟とも棟内に各階1ヶ所ずつ（男女各1つの便器、1階には車椅子用の便器も1つ）、棟外に洋式便所が各1ヶ所ずつある。風呂は各棟の各階に1ヶ所ずつ、しかし障害者用の浴室はなく、障害者はシャワーしか使えない。
本人らの部屋は6畳1間に、1間半の押し入れ兼物入れ。
- 6 1995年6月21日入居。それまでは孫が確保した10畳1間の物置を改造したような部屋に、11人で避難生活をしてきた。初めての申込みで、ここに入居できた。
- 7 入居できたときは嬉しかった。しかし、住み始めてもう1部屋ほしいと痛切に思うようになった。またトイレには困る。障害者や高齢者ばかりのため汚してもそのままになっていることが多い。
部屋も不潔にしている人がいるためか、ゴキブリが異常発生している。
- 8 特に問題はない。
近隣住民との交流は全くない。

も私の面倒を看ながら私がいた病室で暮らしておりました。4月になり、病院から、そろそろ退院して母と一緒に出ていってくれと言われましたが、避難所はすでに受け入れてくれず、他に助けてくれる親戚の者もいませんでしたので、「鹿の子台の仮設なら抽選でなくてもすぐに入れる」ということを聞いてここにやって来たのです。

7 仮設住宅の広さや間取りについては、2人暮らしですので困るようなことはありません。ただ、隙間風が入ってくるので、冬は寒くて大変です。

8 買い物は、入居当初は店が遠くて困ったものですが、今は近所に来た「ミニコープ」で、食料の買い出しは出来るようになりました。日曜雑貨用品については今でも岡場まで行く必要がありますが、それほど頻繁に行くわけでもないので困るというほどではありません。

しかし、今でも2、3ヶ月に1回ほど灘区の病院まで足の治療に通っておりますが、通院には往復4時間ほどかかりますし、交通費も2000円ほどと大変です。

9 この仮設住宅の住み心地ですが、夜がこわいです。

というのは、鹿の子台の仮設は抽選がなくても入居できたことから、仮設入居者に暴力団の人たちがいるのです。それで近所ではけんかがよくありますし、先々月の終わりころだったか、刃物を持って暴れた人がいて警察までやってくるという騒ぎがありました。

また、近くの第6仮設住宅には、暴力を振るわれて自宅の部屋をめちゃくちゃにされた人もいて、この人はこわくて引っ越していったようです。そんなわけで、日が暮れると、特に女性は恐くて外には出れない状態です。

もともとそういう荒っぽい人たちがこの仮設住宅には多く住んでいるようですが、それだけでなく、交通の便の悪い田舎に追いやられ、仕事もなく、ぶらぶらしてばかりいると、みんな気が立ってくるということもあると思います。

警察は、事件が起こらないと来てくれないということで、私たちは本当に困っています。

10 入居後、去年の6月ころにひさしとクーラーが付きました。

クーラーは有り難いのですが、電気代が払えないのであまり使っておりません。

11 こちらに来てから、私もなんとか仕事をしようといろいろ探してみましたが、神戸に今ある仕事は力仕事が多く、右足が動かない私には力仕事はできず、また交通費を出してくれないところもあってこの鹿の子台からでは交通費がかかりすぎてしまう場合も有ります。

また、仮設住宅の住民と言うだけで雇ってくれないということも有りました。仮設の住民はいつどこへ引っ越してしまうか分からないので、雇う方としても雇い難いということです。

そんなわけで、私はなんとかバイクには乗れますので、今は友人がやっている新聞配達の仕事を手伝わせてもらっています。手伝いだけです、月に1、2万円ほどの収入にしかありませんが、毎月の水道光熱費くらいになればと思って続けています。

母は、働いておりません。

娯楽といえば、テレビやテレビゲームくらいで、遊びに行く余裕などありません。

先程申したように、2、3ヶ月に1回ほど灘区の病院に母と一緒に行くのですが、その帰りに街で食事をしたりするのが楽しみです。

現在の収入は、私の新聞配達の手伝いの分だけですが、父が亡くなったときにいただいた弔慰金と生命保険がありましたので、これまでそれでなんとかやってこれましたし、まだ500万円ほど残っておりますのですぐに困るということはありませんが、そろそろなんとかしなければならぬと考えているところです。

12 これからの転出の目処はまだ立っておりません。

8月20日までに公営住宅の第1回目の抽選の申込みができ、私たちは西神の方の住宅を申込みました。震災前にいた灘区の方が本当はよかったのですが、1回の抽選で1ヶ所だけ申込みが出来るということなので、なるべく当選の確立が高く、かつ住みやすそうなところを選んだわけです。この第1回目の抽選で当選しても、実際に入居できるのは来年になるということなので、とにかく早くどこかに当選してここから出て行きたいです。

今回私が申込んだ住宅の家賃は8000円くらいになるということです。引越をする際は、他に手伝いを頼む人もいないので引越業者に頼むつもりですが、引越費用の援助があればいいと思います。

13 仮設住宅の統廃合の話は聞いたことが有ります。

統廃合で別の仮設住宅に移転することは、ここ鹿の子台の仮設の住民にとっては有り難いことです。鹿の子台は仮設の中では最も不便な所にあります。ここの住民は、不便なところに仮住まいをしており、先の見通しもなかなか立たないということで、そろそろストレスの限界に来ており、公営住宅にすぐに入れなくても、少しでも市街地に近いところに移転できればと考えている人が多いと思います。

ただ、移転するにも、これまで同じ仮設住宅でお付き合いして来た近所の方々とバラバラになってしまうのは困ります。特に年寄りや一人暮らしをしている人たちにとってはそうです。これまで何とか助け合ってがんばって来た仲間が急にいなくなることは、一人暮らしの方などが孤独死に陥る原因にもなりかねません。

14 神戸市、兵庫県及び国に対する要望ですが、言いたいことはたくさんあるのですが、特に言いたいのは、空港建設や市街地の復興に使う金があるのなら、震災で家族や財産を失い、これから生活を立て直そ

5 現在住んでいる仮設住宅は、神戸市北区鹿の子台北町8丁目3-1北神戸第5仮設住宅です。プレハブ長屋の1戸で、間取りは台所3畳と、4畳半と6畳の畳部屋です。

6 この仮設住宅に入居したのは、1995年4月中旬でした。

震災後、近くの大開小学校に2日ほど避難して、その後兵庫中学校の避難所に移りました。そこで3ヶ月ほど過ごして、4月になり、中学校の方から、新学期が始まるのでそろそろ出て行って欲しいと言われ、加古川にいる兄のところで世話になることにしました。兄は、奥さんが震災で亡くなり、娘1人と2人暮らしをしており、私はなんだか居辛くなって、抽選無しですぐに入居できると聞いたこの鹿の子台の仮設に来たのです。

ここへ来る前に2、3回、兵庫区内若しくは近隣の仮設住宅の抽選に申込みましたが、どれも当たりませんでした。

7 ここの仮設住宅ですが、1人暮らしをしているので広さに問題はありません。ユニットバスではどうしても風呂に入った気がしませんが、仮設ですから仕方ありません。

困ったのは、畳の隙間からナメクジが部屋の中に入ってくることです。特に梅雨の時期は大変でした。今でも、畳と畳の間にゴムテープを貼っています。

8 買い物は今は近所にミニコープがありますので食料品に関しては困りませんが、兵庫区に住んでいたころよりこちらの方が値段が高いと思います。

ここの仮設に住んでいる人は誰もが思うことですが、市街へ出るのに時間がかかり、電車賃が高いのは不便です。

9 住み心地は、空気と水が美味しいのは有り難いです。私は本来のんびりした性格なので、せかせかしたところがなく、誰の束縛も受けない鹿の子台はその点では良いところです。しかし、飽くまで仮の住まいですし、仕事も見付からずここにずっといると気が滅入ってきます。

またこの辺は街灯が少なく、夜が恐いです。今年の4月くらいから痴漢が出るようになり、特に女性の夜の一人歩きは危ないです。

また、けんかや暴力沙汰が多く、鹿の子台のある仮設住宅に新聞の集金に来た集金係が、わけもなくこん棒で殴られるという事件も起こっています。

私自身も暴力の被害に遭ったことがあります。今年の1月ころでしたか、魚を台所で焼いておりました、換気扇で煙を外に出していたのですが、隣の住民が「煙草の煙が家に入ってくる」と文句を言って来まして、その後、夜中に私の家のドアをどんどん叩いて、私がドアを開けると包丁を持って振り回すということがありました。

その人は、アルコール依存症に罹っているということで、現在入院中です。

鹿の子台の仮設住宅は柄が悪いということで評判です。実際、ペットの飼い方やごみの出し方などマナーが悪い人が多いです。

- 10 入居後に改善された点は、ひさしが付いたのと、クーラーを付けていただいたのと、道の水はけが悪かったのでそれを直してくれました。クーラーは有り難いですが、電気代が払えないのでほとんど使っていません。

- 11 この仮設に入居してから、1995年12月から今年の2月ころまで西宮の方でガードマンの仕事をしたことがありました。しかしその後仕事が無く、現在は生活保護を受けており、月に7万9000円もらって生活しています。

体の調子は先程申しましたように体がまっすぐになりませんが、それ以外は今のところこれといって悪いところは有りません。

身の回りのことは自分独りで出来ます。

テレビはあり、新聞も取っています。

この近所の千代が谷の仮設住宅に震災前からの友人が住んでおり、そこへ行って話をしたりすることがあります。また、週に1回くらいは兵庫区の方へ行って、震災前に住んでいた辺りをぶらぶらしたり、垂水に住んでいる友人を訪ねたりもしています。

- 12 転出の目処はまだ立っていません。

第1回目の公営住宅の抽選には、垂水区の旭ヶ丘に応募します。

しかし、高齢者や障害者、母子家庭が優先されるでしょうから私が当たる可能性は少ないと思います。

いずれにしても仮設住宅を出たときのことをそろそろ考えています。

体がまだ十分に回復していませんが、お盆を過ぎたころからまた仕事を探そうと思っています。公営住宅に入るにも家賃や公共料金の支払いをするにはどうしてもある程度のお金が必要ですから、仕事を見つけなければなりません。

これから入居する公営住宅についての注文ですが、どこに当たるか分からないのですが、公営住宅のリストを見ていると意外に風呂がついていないところが多く、風呂が無いのは困りますので、是非どの住宅にも風呂を付けて欲しいと思います。

- 13 仮設住宅の統廃合の話は聞いたことが有ります。

私としては、鹿の子台は確かに不便ですが、別の仮設に移転したいとは思いません。引越費用を出す余裕がありませんし、これまでの近所付き合いが急に無くなってしまうのは困ります。また、ここならまあまあ広い部屋を使っているのですが、市街地に近くなるほど部屋が狭くなっているようで、それは嫌です。

- 14 神戸市、兵庫県、国に対する要望ですが、この7月に入ってから鹿の子台の仮設では孤独死の人が出ました。60才くらいの1人暮らしの男性で、肝臓を患っており仕事が無くて、部屋で1人死ん

でいたということです。

まだまだ震災は終わっていません。行政は復興に向けてさまざまな政策を立てておられますが、もっときめこまかい配慮をお願いします。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

陳述者 女性（51才）

- 1 私は現在一人暮らしで51才です。27才になる息子が1人居るのですが、息子は3才のときに自閉症を発症し、以来現在まで治癒せず、震災前から神戸のある社会福祉施設で暮らしております。時々面会に行き、たまには自宅に連れて帰ることも有ります。主人とは10年以上前に離婚して、連絡は時々取り合っておりますが、離婚した際の約束で養育費等は一切もらっておりません。
- 2 震災前は、神戸市灘区の文化住宅に、やはり1人で住んでおりました。その家賃は月3万1000円でした。
- 3 この文化住宅は、震災で「半壊」の認定を受ける程度に損壊しましたが、幸い私自身それにより身体的には負傷しませんでした。息子は当時施設におり無事でした。
- 4 私は、離婚後は保険の外交員の仕事をしておりましたが、息子の世話や、私の親が病気になったり、ストレスと疲労がたまって体を壊し、1990年ころには仕事ができなくなり退職致しました。以来、知り合いの人の紹介でパートの仕事を時々やっておりましたが、定職には就けず、体調もずっと良くありませんでした。
息子は中学を卒業して以来ずっと施設にいますのですが、施設の自己負担分の費用は、息子が20才になるまでは私の収入に応じてその額が決められていましたが、20才になって以降は、息子自身が障害者年金の受給者になり、その中から徴収されるようになったので、私の負担はありません。その額は、年金が2ヶ月に1回15、6万円ほどで、その中から毎月3万4000円ほど徴収されます。
- 5 現在入居している仮設住宅は、神戸市中央区港島にある仮設住宅です。6畳と4畳半の畳部屋と3畳ほどの台所が有ります。押し入れは4畳半の部屋に1間半あります。
- 6 震災の時に住んでいた灘区の文化住宅は半壊の状態、なんとか住める状態だったので、しばらくはそこで雨露をしのいでいました。
仮設住宅入居の募集が始まってからは、やはり住み慣れた灘区内の仮設に申し込んでいたのですが、結局当たらず、ここポートアイランドに申し込んだのが当たったので、1995年5月ころここにやってきました。
- 7 この仮設住宅の間取りにつきましては、とりあえず住めるところに入れたので有り難いと思っているのですが、少し狭く感じています。荷物がどうしてもかさばってしまって、不要なものも多いのですが、

もう少し部屋が広ければいいなと思います。気になるのは音がやかましいことです。特に夜や早朝に、トイレ、シャワー、換気扇を使うのはとても気を使います。また、部屋の隙間からムカデやクモ、ハエがよく入ってきます。床の下ではネズミが走る音が良く聞こえます。また、時々ハトが部屋の中にまで入ってくるのがあって、ご近所でハトに餌をやっていらっしゃる方が居るようなのですが、迷惑しています。

8 買い物や通勤の便はまあまあですが、近隣関係は、私の場合よくありません。私は51才ですが、ここの仮設の住民としては若い方で、ご近所は私よりずっとお年寄りの方たちばかりで、若い私のことを妬んでいるのか、陰湿な嫌みを言われたり、いじめられたりすることがあります。

9 ここの住み心地は、贅沢を言えばきりがありませんが、何とかやっては行けます。

10 入居後改善されたところは、去年の夏ころに玄関のひさしとクーラーが付きました。他には台風で仮設住宅が飛ばされないように、ロープとそれを結び付ける杭が打たれました。また、今年になってからは、玄関とは反対側の6畳の畳部屋の方にもひさしがついて、これで南からの直射日光が入らなくなって、部屋の中が大分涼しくなりました。

11 去年の5月ころにこの仮設住宅に入居してからも体調が悪く、特に、半壊した灘区の文化住宅に住んでいたころ、水道が止まってしまって、給水車から水を汲んできて運んだりしているうちに、左肩を痛めてしまって、五十肩で肩が上がりなくなってしまいました。

また、震災後の混乱の中で、何の資格もない、しかも50才を過ぎた女性である私ができる仕事などありませんでした。ですから、私の収入は全く無く、息子の障害者年金を借りる形でなんとか生活してきました。

しかし、いよいよお金に困るようになり、なんとか働かないことには食べていけなくなりましたので、今年の7月から工事現場の交通誘導の仕事を始めました。この仕事で日当が8000円ほどもらえますが、仕事で使う靴やカバンを買い、また仕事に出ると飲み食いするのに結構お金を使ってしまったので、今のところ貯金は全くできません。

食事に関しては、現在1ヶ月に3キロほどの米の配給を受けており、これはとても助かっています。

テレビは古いのがありますが、新聞は取っていません。

娯楽は全く無く、クイズの雑誌を買ってきては部屋で1人で楽しむ程度です。

こんな私でも息子は無条件に私を頼ってくれますので、息子だけが今の私の生きがいです。

今の私の健康状態ですが、肩凝りがひどいことと、今年に入ってお

金がなくて食料を買うことができずにろくな食事をしなかったため、体重が急に減ったのが原因で、歯茎がやせほそり、歯の調子がおかしくなっていました。歯医者にかかるお金が無いので、今は我慢しています。

12 転出の目処は立っていません。

公営住宅の申込みは、震災前に住んでいた灘区の物件を申込みました。

現在の私の収入では、私自身が文字どおり食べて行くだけで精いっぱいですので、公営住宅でも家賃を払えるかどうかは心配です。

13 仮設住宅の統廃合の話は聞いたことが有りますが、引越するにも引越費用がありません。また、交通の便がこれ以上悪くなるのは、仕事に行くのに今でも不便を感じているほどなので、困ります。

14 とにかく今は、1日も早く、落ち着いて住める場所を確保したいです。また、何とか安定した仕事を見つけないことには、ここの仮設住宅を出ても生活して行けるかどうか大いに不安です。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

陳述者 女性（63才）

1 私は現在、内縁の夫と2人暮らしで、私も夫もともに63才です。

夫と一緒に30年以上になります。子どもはおりません。

2 震災以前は、神戸市灘区将軍通にあった2階建文化住宅の2階に住んでおりました。

3 この文化住宅は、震災で1階部分は潰れてしまい、2階部分は建物自体が割れてしまって、私は右足に5針縫う怪我を負いました。

夫は、地震のときに布団にくるまったお陰で無事でした。

4 夫は、もともと鳶の仕事をしていましたが、アルコール依存症で肝臓を悪くし、仕事が出来なくなって、10年ほど前から無職で、以来生活保護を受けております。私自身、震災前から心臓を患っており、仕事が出来ないので、夫が仕事が出来なくなってからは生活保護を受けております。その金額は1ヶ月に1人5万5000円ほどですので、2人で1ヶ月に11万円ほどもらっております。文化住宅に住んでいたころは、この他に家賃も全額補助してもらっていらしたので、何とかやってこれました。

5 現在入居しているのは、神戸市中央区港島内のポートアイランド第3仮設住宅で、間取りは、4畳半と6畳の畳部屋と3畳ほどの台所です。

6 震災に遭って、住んでいた文化住宅は全壊しましたので、その日から住むところに困ってしまい、取り合えずその日は近所の避難所で1夜を過ごして、その後神戸高校へ避難しました。神戸高校へ避難してから半月程して私は呼吸困難に陥り、それ以来金沢病院に入院するようになりました。その後さらに半月程してから、今度は夫が大量に吐

血及び下血し、やはり金沢病院に入院するようになりました。

その後ここポートアイランドの仮設住宅に申込んだのが当たったので、夫が1995年6月中旬に先に入居し、私は約1ヶ月遅れの7月中旬に退院して、ここへやってきました。

7 この仮設住宅の設備について言いたいことは、床の下に水が溜まっており、そのため夏のこの暑さで床が腐ってきており、畳も黒く変色してきております。

8 住環境については、心臓が悪い私に取りましてはポートライナーの最寄りの駅に行くまでに、歩いて30分かかってしまい、大変です。

私は、2日に1回須磨まで透析を受けに通院しているのですが、通院の日は朝5時にここを出て須磨まで通っており、交通の便は悪いです。

9 住み心地は、近隣の方が皆さんとてもよくしてくださるので悪くないです。

10 クーラーは、私たちが入居した当初から、部屋の中にすでに付いていました。今年の6月ごろ、6畳間の部屋の屋根にひさしがつきました。

11 昨年8月の下旬ごろ、私は再び体調が悪くなって、救急車で神戸市中央市民病院に運ばれました。そこで、また1ヶ月半ほど入院していたのですが、以来透析を受けなければならないということで、市民病院の医者の紹介で、新須磨病院で2日に1回透析を受けております。

夫は、現在も金沢病院に通院しております。

私も夫も、このように病気で体が思うようになりませんので、近くのふれあいセンターに行くのも億劫な状態です。

娯楽はテレビくらいで、新聞は読売新聞をとっております。

食事などの生活費は保護のお金でなんとかやっておりますが、そもそも私が心臓、腎臓を、夫は心臓、肝臓を患っており、2人とも厳しい食事制限を課されているので好きなものを飲み食いできませんので辛いです。

12 転出の目処は立っておりません。

先日の公営住宅の応募では、私が透析を受けている病院の近くの6階建て住宅を申込みました。

私は2日に1回必ず透析を受けなければ死んでしまうので、病院の近くでなければなりません。もし、歩けなくなっても、この鷹取の住宅ですと車椅子でも通院できますので、なんとしてでもここに入りたいと思っています。

この物件は、民生の人の紹介で応募しました。

13 仮設住宅の統廃合の話は聞いたことがあります。

しかし、まだこの仮設は2、3年は立っていると聞いたことが有りますので、私たちは公営住宅に移れるまではここに住んでいるつも

りです。

引っ越ししようにも体が動きませんし、これまで築いた友好的近隣関係を失いたくありません。また、これ以上交通の不便な所に行くことになるのは困ります。

- 14 震災後、夫婦ともども急に体調を崩して、入退院を繰り返すばかりで、良いことが何もありません。

生きていても何の楽しみも無く、もう死んでしまいたいとも思います。でも、与えられた命ですから、今はこの命を全うするしかないと思ひ、何とか生きております。

行政は、能書きばかり垂れていないで、私たちが少しでも生きて居易くなるようにしてください。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

陳述者 女性74才

1 1人暮らし。

2 神戸市東灘区魚崎北町

3 住みはじめて約40年になる木造2階建の自宅が倒壊（全壊）した。当日は離れに寝ていたため怪我などはなかった。夫は昭和23年に亡くなり、1人暮らしをしていた。

4 大学教授を定年退職し、現在も続けて女子短大の非常勤講師をしている。収入は、共済年金や講師料などで月20万円程度。健康状態は、年をとって足が悪くなり、東神戸病院に通院中である。

5 神戸市東灘区向陽町1-4所在の六甲アイランド第6仮設住宅。プレハブ製の2K。面積については、神戸市は8坪あるというが、計ってみると8坪はなく、実際は、25・9㎡（約7・85坪）しかない。

6 ここに入居したのは、1995年4月23日。家が倒壊してしまい仮設入居するまで避難所にいた。

7 もともと住んでいた家が広かったのですが、仮設に入居してみると、特に狭く、圧迫感がある。また、仮設にいるというみじめな思いはあるが、1人暮らしなので、何とか我慢している。

8 六甲アイランド病院は、いつも人が多く、待ち時間が長いので、本土（仮設の住民は、六甲アイランド向かいの地域を「本土」と呼んでいる。）にある病院に通院している。

仮設からスーパーに行くには、トラックが多く通行する幅の広い道路を渡らねばならず、工事中であることも重なって、非常に危険である。

最近、横断中のお年寄りがトラックに跳ねられ死亡した事件もあった。

9 とにかく夏は暑く、冬は寒い。クーラーをかけないと、室内が摂氏44度まで上がり、とても中には居られない。

5 仮設高塚台住宅

積水住宅が設置したものであり、全部で107戸あり、現在80%程度が入居している。

2Kに風呂とトイレはセパレート型である。部屋の面積は5畳と4.5畳位。和室ではなく、絨毯がひかれている。

6 1995年6月。3回目までの募集は半壊以上という要件であったので、応募資格がなく4回目に応募して入居することができた。

7 2人家族で住むだけなら充分である。荷物の多くは古い家に残したままである。

8 勤務先は西区にあるので、通勤にはより便利になった。

買い物は西神駅前に行くこともあるが、値段は高いと思う。

母は、長田区の新長田眼科に週1回通院している。

母の聴覚障害のため、近隣では誤解される面もあったがかばってくれる人もおり、それなりに生活している。

9 悪くはない。

10 1996年7月に西側に庇をつけてくれた。入居後すぐにとゆが土管に接続していなかったので修理を求めた。

11 本人についてはあまり変わっていない。テレビも新聞もある。母はふれあいセンターで手芸や踊りをしている。

12 移転先はない。

西区にある公営住宅を希望する。

家賃としては4万円までの3DKを希望。

問題は、灘区に住んでいた婚約者の借家が全壊し、岩岡にある仮設に居住しているが、彼女は単身なので最大でも2Kしか当たらないとされている。自分は結婚をして母と3人家族で住みたいのでせめて3DKに入りたい。

今回の公営住宅の募集に当たっても、半壊以上が優遇されるため、本人は優先枠外で応募せざるを得ない。

13 今住んでいるところから転居を求められても応じられない。2度3度仮設を移転することは耐えられない。

14 岩岡の仮設に住んでいる婚約者がここの仮設内の空き家（何軒も存在する）に移転することを希望したが、拒否されて現在に至っている。

なぜ近くの仮設が空いているのに彼女が移転することができないのかわからない。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

陳述者 女性（64才）

1 女性64才 単身

2 東灘区本庄町 木造2階建アパートの10軒の2階に住んでいた。
家賃は 2万2000円。

3 1階はぺちゃんこにつぶれ、2階もばらばらになって、4時間後に

救出された。

頭にかすり傷（多分ガラスで切れたのだと思う）と左側を下にして身動きがとれない状態でいた間に余震の度にだんだん圧迫されて椎間板ヘルニアになった。

- 4 ヘルパーとして週4日働いた収入週に2万2500円と厚生年金月1万6500円の合計11万円程度が収入の全てであった。生活としてはかなり厳しい。10年以上前から高血圧で週2回医者に通っていた。
- 5 仮設高塚台住宅
積水住宅が設置したものであり、全部で107戸あり、現在80パーセント程度が入居している。
2Kに風呂とトイレはセパレート型である。部屋の面積は5畳と4.5畳位。絨毯がひかれている。
- 6 1995年11月5日。地震後2人の娘のうち家屋の被害が少なかった妹宅に引き取られ、このまま一生住んでもよいと言われていた。
一方姉の家族は、六甲アイランドの仮設に住んでいた。娘2人との意思疎通にトラブルがあって、単身妹宅を出て現在に至っている。
当初市に申し込みに行ったところ、加古川の尾上の松を薦められたが遠すぎると考え、市議員に働きかけた結果ここに入ることができた。
- 7 間取りや設備についての不満はない。ただ寝室のすぐ外側を他人が通るのが今でも怖い気がする。
- 8 買物は西神中央へ行く。ヘルパーの勤務先は、地震前同様東灘区にあるので極めて遠い。
深江の杉原医院に月2回通っている。
ここにも親しい人が2~3人できてそれなりに楽しく行っている。
- 9 まあまあ
- 10 なし
- 11 1996年2月から岡本でのヘルパー週2回が復活した。1回5500円をもらっているが、交通費が往復1440円かかる（バス200円、地下鉄360円、JR160円）。
厚生年金と合わせ月5万円に満たない収入でしかない。
プロパン、水道、電気、電話など1万円近くかかる。
葬式費用として契約していた生命保険金を解約して130万円程度入手した。実は生活保護を受けようとして相談したところ、まずそれを解約することを薦められた。
- 12 転出の目処はない。
家賃は2万5000円くらい、間取りは2K、東部の公営住宅を希望する。
- 13 大変困る。
- 14 元の近くに安心して早く住めるようになりたい。家賃補助は非常に

は今でも変わっていません。子供達には家にすこし給料を入れてもらっていますが、これは将来に備え、子供のための貯金にしています。

5 構造・間取りは、プレハブで、6畳、4畳半、台所3畳、押入1間、押入半間です。

6 1995年8月にここに入居しました。

それまで兵庫区の会下山住宅などに2～3回応募しましたが、すべて落選しました。

夫の職場が中央市場（兵庫区）ですから朝5時に出勤しなくてはならず、交通の便がないため、遠方の仮設住宅には応募できませんでした。

ここも、神戸大橋が復旧するまではポートライナーも動かず、通勤に苦労しましたが、他の仮設に比べると立地はよいほうです。

7 なんにもかも応急の仮の宿で、「評価」以前の状態です。

ここで大人5人が暮らすこと自体、過密も度を越しています。

実は、この隣の部屋は、すでに前の入居者が引き払っているのですが、鍵を市に返しておらず、この人から鍵をもらった別の仮設住宅の人が、荷物置き場に使っています。こういうことを市に知らせるのも告げ口のように厭なので、知らせていません。

けれども、隣が空屋ということで使用を願い出ても、市は「1世帯1戸の原則なので、お宅が過密でも、隣を使ってもらうわけにはゆかない」との回答です。

ポートアイランドの第7仮設住宅では、1Kに4人以上の世帯が7件もあるのに、これまで、隣が空いても2部屋貸してもらえた例はないと聞いています。

市は、退去者の鍵の返還には非常にルーズで、移転後も荷物置き場になっている例は放任しながら、本当に困っている超過密の世帯に対しては、杓子定規に「1世帯あたり1戸の原則」をふりかざしており納得がゆきません。

部屋が余っておらず、皆が同じ状態ならば、我慢するしかないときらめもつくのですが、一部には退去者からこっそり鍵をもらって荷物置き場にし、自分の部屋は1人で広々と使っている人がいるという不公平な実態があります。

市は「1世帯7人を超えなければ、たとえ1Kでも2部屋を貸すわけにはゆかない」としているそうですが、家族の年齢構成、子供の性別などによって事情はそれぞれなのに、一律に「1Kに6人までは我慢せよ」というのでは血の通わない行政といわれても仕方ありません。

うちは、5人の寝床としては広さがまったく足りず、子供も親も、みんな雑魚寝状態です。

布団以外、満足な収納スペースもないので、服は吊しっぱなしです。

長女は職場にきちんとおしゃれをして出かけることもできず、毎日Tシャツにジーンズといった格好です。年頃なだけに、かわいそうに思います。

また、食事は手間をかけた献立はできません。流し台は食器を少し置けば一杯で、配膳台もなく、食器を置く場所もないからです。毎日、ごった煮をてんこ盛りにして、90cm四方の狭いちゃぶ台から取り分けて頂く生活が続いています。これは作り手にとっても、食べる者にとっても、長期にわたるとかなりのストレスです。質素でも、手間ひまかけた家庭の味が懐かしく思えます。

- 8 買物や、通勤・通学・通院には便利な立地です。同じポートアイランド仮設住宅でも第1、第2は騒音がひどいと聞いていますが、ここは比較的静かです。近隣関係も、お互い助け合って声を掛け合い、良い関係ができていますので、有り難いと思っています。

高齢者の世帯が多いなかで、うちには何かと世話役が回ってくるようになりますが、できるだけお引き受けしてお役にたてればと思っています。

ただ、仮設住宅の年齢構成は高齢者の割合が非常に多く、いかにも不自然です。もっと自然な共同体ができるよう募集方法を考えられなかったのかと思います。

- 9 これまで述べましたように、「住みごこち」という以前の状態ですので、「評価」といっても何も申し上げることはできません。私共にとっては、ここを出られる日が決まっているので、今を過ごせるということです。

- 10 市から、「暮らしよいように自助努力される分には手をくわえてもらってかまいません」といわれていますが、たいした手は加えていません。市に改善を申し入れたこともありません。私たちは若いので風呂の入り口の段差などはしのいでいます。

手を加えたのは、衣類掛を壁に取り付けたこと、暑いので簾をかけたことくらいでしょうか。仮の宿だと思っているので必要最小限のことにとどめています。

- 11 入居後も夫の職業は同じで、幸い収入もかわりません。

けれども全壊になって取り壊した家のローンを、無理をして全額支払いましたので、老後のための蓄えがゼロになりました。

新しい家も建てなければならぬので、経済的にはぎりぎり精一杯の状態、余裕も、老後の見通しありません。

主人は白髪が増え、体重が減りました。けれどもしんどいと口に出してしまうと気持が萎えるので、胸にしまって頑張っています。

私は、震災前から子供のPTAの父兄でつくるクラブで卓球をしていたのですが、こちらへ移ってからも、地元の港島小学校の卓球クラブに参加させてもらっています。運動で身体を動かしてストレスを解

消しています。

子供達は、音楽を聞いたり1人になれる場所もなく、高校生の二男は友達が訪ねて来たがるのを「絶対に来るな」とって呼びません。

本来は友達を家に呼んだり、親に話せないことなど友達や兄弟と話したりする年頃なのでしょうが、ここでは無理だと思います。

12 前にも述べたように、住居が全体に15cmほど傾いてしまいました。

ジャッキアップをして修繕しても以前の強度は望めず、費用も新築とさほど変わらないとのことで建て替えを決め、震災後まもなく準備にかかりました。

話がさかのぼりますが、私共の家は、もともと2戸1の住宅で築30年以上が経っていました。1993年に隣家を買って1戸として使用することにし、総費用2700万円をかけて全面改装しました。このとき、築年数が古かったので銀行でしかローンを組まず、銀行から1500万円を借入れました。あとの費用は、かきあつめたお金でなんとかしました。

それから2年もたたないうちに地震で全壊となり、ローンだけが残りしました。もっとも、老朽化した建物が多いため、ごく近所に亡くなった方が2名おられることを思うと、改装で建物を補強していたために命拾いをしたという気がします。

金利のことがありますので、再築の資金は住宅金融公庫で借り入れたいと思いましたが、土地には、すでに改装のときの銀行ローンで1番抵当がついていたため、公庫での融資は受けられないことがわかり、非常に困りました。

致し方なく、子供達の結婚資金として準備していたお金等、何もかも一切をはき出して銀行ローンを返済し、抵当権を抹消しました。

ところが、ようやく融資のことは目途がついたと思ったのですが、今度は建築確認の問題が生じました。土地が奥まった場所にあるため、接道の関係で、隣地所有者から通行地役権の確認書を取るよう言われました。

私は、再築を決めるに際して、まず市役所に行き、「この土地に建物がたつのかどうか」と確認したところ、「大丈夫です」と言われていました。ところが、いざ建築確認をとる段になって、「隣地所有者の印鑑が必要」といわれて立ち往生しました。これまで問題なく隣地を使用し、所有者は決して通行を認めないような人ではありませんが、たいそうな書類に印鑑を押すとすると躊躇するのが人情です。それだけでなくもお世話になっているのに、そんな無理なことを頼めません。役所は何でも書類書類といいますが、実際にはそうもいかないことがあるのです。こういう事情を説明し、「建物は建つと言ったはずではないですか」とつめより、ようやく建築確認をとることが出来ました。

場所が奥まっているので、再築建物は3階建にできず、建坪は24

坪から15坪ほどになりました。

公庫からの借り入れは、2400万円ほどの額になりました。

これから一生懸命働いて返済するつもりですが、返済だけで何も残りそうもないので、定年後の生活が心配です。また、以前にもまして病気や事故が不安で、保険にもかなりの出費が必要になりました。

さらに再築費用には、消費税がしっかりと課税され、100万円以上の税金がかかります。これだけあれば台所の資金分に充てられます。

13 復旧住宅の家賃が低く抑えられるということですが、必死で自助努力を続けている私たちに対しては、何の救済もないことが悔しくてなりません。

これから地域が復興してゆくためには、私たちのように働ける世帯が力を回復することが、非常に大切だと思います。

ところが自力ではいあがろうとする私たちに対して、行政の援助は殆どありません。これでは、県や市の復旧計画を聞いても素直に喜べません。

せめて、前のローンの利息分だけでも援助する、新築費用の消費税を免除するなど、自力復旧を後押しするための国の政策があってしかるべきだと思います。

米軍基地への日本政府の支出額を聞くにつけ、私たちは、国に見捨てられたという気がしています。

先日国会議員が「視察」に来られましたが、きっかり10分間だけの「視察」に多数のマスコミが殺到し、大騒ぎでした。いったい10分で何ができたのか首を傾げたくになります。

県や市は勿論ですが、とりわけ財政的権限のある国は、もっときめ細かい震災対策を真剣に考えて欲しいと思います。

